途上国森林減少・劣化防止推進事業（拡充）

【８６（９１）百万円】

事業のポイント

ＲＥＤＤ＋を実施に移していく上で解決が必要となる先住民の権利の尊重等の社会経済的な課題や、途上国が直面する技術的課題への支援、森林減少・劣化を招く要因分析と森林の便益把握に取り組みます。

＜背景／課題＞

- 現在、気候変動枠組み条約の交渉では、途上国の森林減少・劣化に由来する排出の削減等（ＲＥＤＤ＋）が重要な課題として検討が進められています。
- 各途上国においては、二国間、多国間、ＯＤＡ、民間等多様な形でＲＥＤＤ＋に必要な政策面、技術面の支援が進められており、我が国としても地球温暖化対策における重要な課題として取り組んでいるところです。
- このような中で、ＲＥＤＤ＋の取組を進めるには、森林を利用する先住民への配慮や生物多様性保全等（セーフガード）の社会環境的な課題への対応、途上国におけるＲＥＤＤ＋に対する準備の加速化、森林減少・劣化等の要因や地域に及ぼす影響に対する地域からの理解が重要となっています。
- ２０１１年１２月のＣＯＰ１７では、ＲＥＤＤ＋に関して、社会経済的な側面ではセーフガードに関する一定のガイドラインが示され、技術的な側面では森林参照排出レベル等に関する技術指針が決定されました。しかし、情報把握・分析にかかるコスト等を踏まえたセーフガードの具体的な評価手法等や、途上国にも容易な森林モニタリング技術の開発、森林減少・劣化を招く要因等分析については経験、知見が不足し、これらへの対応が喫緊の課題となっています。

政策目標

１．ＲＥＤＤ＋に求められるセーフガードの評価・検証手法の開発と普及に関し、気候変動枠組み条約交渉における我が国の意見提出に検討結果を活用する（１年１件）。
２．途上国への技術向上に向けた支援に関し、支援された技術等が事業実施国におけるＲＥＤＤ＋プロジェクトや関連政策等で導入される。
３．事業で得られた森林減少等の要因等の分析調査に関し、事業実施国の政府関係者等を対象にワークショップを実施し、８０％以上の参加者から内容について理解を得る。

＜主な内容＞

１．森林保全セーフガード確立事業

ＲＥＤＤ＋に求められるセーフガードについて、森林保全活動に伴う効果・影響を適切に評価･検証するための手法を開発、普及することにより、ＲＥＤＤ＋の具体的枠組み構築も含め、世界の持続可能な森林経営の推進に貢献する。

（委託先：民間団体等
事業実施期間：平成２５年度～平成２７年度）

２．途上国森林劣化対策整備事業（拡充）

途上国における森林劣化防止対策に取り組むため、炭素量把握等について、簡素で効率的な森林モニタリング技術の開発等を行うなど、ＲＥＤＤ＋実施に向けた技術向上を支援する。

（補助率：定額
事業実施主体：民間団体等
事業実施期間：平成２６年度～平成２８年度）

３．途上国森林減少等要因影響分析調査事業（拡充）

途上国において森林減少・劣化を引き起こす要因や森林減少を防ぐこと等による機会費用の分析等を行い、森林減少・劣化防止対策の推進に向けた途上国の取組を支援する。

（補助率：定額
事業実施主体：民間団体等
事業実施期間：平成２６年度～平成２８年度）

［お問い合わせ先：林野庁計画課（０３－３５９１－８４４９（直））］

途上国森林減少・劣化防止推進事業
－森林保全セーフガード確立事業－

○　森林保全活動に伴うセーフガード（生物多様性保全や先住民への配慮、天然林転換の防止等）の評価・検証手法を開発し、REDD＋の枠組構築も含め、世界の持続可能な森林経営の推進に貢献する。

現状・背景

•気候変動交渉は、「ポスト京都」枠組へ前進
•カンクン合意を受けREDD＋の検討が進展

⇩

REDD＋を先取りし、各国で様々な取組が進展

国際交渉において、セーフガードに係るガイドラインを示す必要

⇩

セーフガードについて、途上国の実態やコストを踏まえた具体的な評価手法・検証方法を明らかにする必要。

事業内容

1. **情報収集・整備**：　セーフガードに関する議論の動向や先行事例に関する情報の整備

2. **セーフガードに係る評価手法の開発**：　具体的かつ実践的な情報収集と評価の手法を明らかにし、REDD＋のガイダンスの案を提示。

3. **人材育成**：　セーフガードに配慮したプロジェクトの企画立案を担う人材の育成や、事業成果の普及

①森林プロジェクトへの反映と
②国際ルールへの反映

持続可能な森林経営の促進

地球温暖化対策への貢献

途上国森林減少・劣化防止推進事業（拡充）
ー途上国森林劣化対策整備事業ー

REDD+の実施には森林炭素量の正確な把握が必要

REDD+の活動

(a)　森林減少からの排出の削減 ⇨ 基本的には森林面積の減少が確認の目安

森林減少

(b)　森林劣化からの排出の削減 ⇨ 面積計測だけでは劣化は確認できない

森林劣化

(c)　森林炭素蓄積の保全
(d)　持続可能な森林経営
(e)　森林炭素蓄積の強化

↓

森林面積変化の把握に加え、正確な蓄積把握が不可欠

違法伐採や薪炭材の過剰採取等多様な要因

↓

実施には多大な労力、アクセスの問題も顕在（僻地に所在、所有者の拒絶等）

デジタル空中写真等様々な手法の長所、短所を勘案した最適な劣化の把握方法を検討、開発

↓

課題となっている森林の劣化対策の推進

途上国森林減少・劣化防止推進事業（拡充）
ー森林減少要因影響分析調査事業ー

背景

REDD+対策には、炭素量の計測等と並び、森林減少・劣化対策活動の早期展開、拡大が大きな課題

課題

・森林減少・劣化の要因（背景）の理解と適切な対策
・途上国の政府関係者や地域住民の森林の価値や経済的影響に対する理解

要因の分析・理解と対策の検討

・焼畑、違法伐採、農地転用等の直接的要因
・貧困率の増減等の社会経済的背景
（法規制だけでの対処は困難）

↓

要因・社会経済的背景の分析・理解を踏まえた効果的な対策

REDD+が及ぼす経済的影響（機会費用等）

農地転用や伐採等から得られる利益の代価
森林のもたらす便益（水源かん養等）
等の見える化

↓

森林減少・劣化対策の重要性

成果の普及と理解

政府関係者、地域住民
ステークホルダー

地域の理解と合意による円滑な活動

森林減少・劣化対策活動の実施・展開

持続可能なREDD+活動の展開
排出削減量の確保
地球温暖化対策への貢献